

広島県における畜産業の現状と環境対策について

広島県農林水産部農水産振興局畜産振興室
畜産環境グループ 神石 新治

1 本県農業・畜産の概要

(1) 広島県は、中国四国地方の中央部に位置し、北部は中国山地に、南部は瀬戸内海に面し、面積は8,476km²で、県土の73%を森林が占めています。年平均気温は17.0℃(2004年)、年間降水量1,902mm(2004年)で変化に富んだ自然条件と温暖な気候を生かし、稲作、果樹・野菜及び畜産など多彩な農畜産物が四季を通じて生産されています。

また、本県農業は、長い年月にわたって蓄積された優秀な技術と優れた種苗・種畜を有しています。

このような中で、畜産は地域営農の核となる役割を果たしており、中山間地域農業・農村の活性化を図る上で、重要な位置を占めています。

(2) 本県における平成16年の農業産出額は1,044億円で、畜産は産出額の35%、369億円で第1位の位置にあり、本県農業の基幹部門として大きな役割を果たしています。

全国順位では、農業産出額は31位で、畜産は23位、家畜別では鶏卵の5位を最高に酪農25位、肉用牛28位、豚、ブロイラーは30位です。

(3) 本県の畜産は古くから和牛を中心として発達し、“和牛のふるさと”として全国に優れた素牛を供給してきました。

近年は、企業的経営体による大規模な酪農、肉用牛、養豚、養鶏経営が育つとともに、農業の国際化や多様化する消費者ニーズに対応するため、低コスト生産やブランド化(広島牛、サンマーク牛乳)の推進など、積極的な取り組みが行われており、安全・安心な県内産畜産物の供給が図られています。

区分	調査年月日	実数	全国順位
農家戸数	17.2.1	74,237戸	17
農業就業人口	〃	63,028人	25
(基幹的農業従事者)		43,565人	24
(うち女性比率)		48.2%	13
(うち65歳以上)		75.0%	2
耕地面積	17.7.15	60,500ha	24
(水田)		44,200ha	24
(牧草地)		942ha	20
	年	百万円	
農業産出額	16	104,380	31
(畜産)		36,880	23
(酪農)		6,840	25
(肉用牛)		5,320	28
(豚)		3,640	30
(鶏卵)		17,260	5
(ブロイラー)		1,600	30
(米)		30,170	24
(野菜)		17,080	36
(果実)		12,640	19

家畜の飼養頭羽数 平成18年2月1日現在

区分	飼養戸数	飼養頭羽数	1戸当たり頭羽数
乳用牛	257戸	11,824頭	46.0頭
肉用牛	1,074〃	29,620〃	27.6〃
豚	46〃	59,033〃	1,283.3〃
採卵鶏	97〃	9,152,500羽	94,356羽
ブロイラー	12〃	653,300〃	54,442〃
みつ峰	91〃	4,210群	46.3群

2 畜産振興の基本方針

広島県総合計画「元気挑戦プラン」の基本目標「活力と安心、希望のある『元気な広島県』の実現」を具現化するため、平成18年3月に改定した「広島県新農林水産業・農山漁村活性化行動計画」の推進を図ります。

畜産については「畜産の生産構造改革」及び「食の安全・安心の確保」を重点に、担い手が主体となる行動計画の実現に向け、次の施策を重点として推進します。

重点施策

- 1 畜産の生産構造改革の推進
 - ①広島牛の生産構造を改革し、広島牛の供給拡大を図る
 - ②畜産経営の安定と資源循環型畜産を推進する
- 2 安全・安心な畜産物の供給
 - ①高病原性鳥インフルエンザ等海外悪性伝染病の発生予防と危機管理体制の整備を図る
 - ②畜産物トレーサビリティシステムの推進を支援する

3 広島県の畜産物

広島牛 ……伝統牛から21世紀の逸品牛へ“広島牛”

広島牛は、「神石牛」「比婆牛」のクロスにより誕生した最高の和牛で、広島県内で生産、肥育され、血統が明らかな肉質等級4以上に格付けされたものを“広島牛”として認定しています。

「広島牛」のブランド化を推進する広島牛特産化促進対策協議会では、現在26戸の広島牛ファーム、50店舗の広島牛販売店や12店舗の広島牛料飲店を指定し、広島牛の生産と消費の拡大を図っています。

サンマーク牛乳 ……フレッシュが決め手
サンマーク牛乳

新鮮で風味のあるおいしい広島生まれの牛乳を統一ブランド化し「サンマーク牛乳」として販売していま

す。

「サンマーク牛乳」のブランド化を推進する広島県サンマーク牛乳推進協議会では、統一マークを表示して、安心しておいしく飲める広島ブランドのまごころ牛乳として普及を図っています。特に品質の優れた牛乳は、特選牛乳“ゆめ”として販売しています。

広島育ちのトンちゃん ……広島育ちのおいしい豚肉

味よし！カロリーよし！健康によし！ ・味覚の三豚物語・

本県の緑に囲まれた豊かな自然のなかで、約6万頭の豚が飼われており、年間約10万頭の肉豚が生産されます。広島県養豚協会では、県内の消費者へフレッシュでヘルシーな県内産豚肉を「広島生まれのトンちゃん」という名称で統一し、地産地消の推進を図っています。

広島県産たまご ……粗生産額全国第5位、養鶏王国“広島”

衛生管理を徹底した鶏卵生産農場から年間約11万トンを生産。

県内需要量の約2倍の生産量を誇り、健康な鶏から生産される新鮮でおいしい卵は、県内はもとより、広く関西方面まで出荷されています。

4 平成18年度の畜産環境保全に対する取組

(1) 家畜排せつ物処理施設の整備支援

本県は家畜排せつ物法の制定に伴い、平成12年11月に「広島県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画（以下「県計画」という。）」を策定し、この計画に基づき堆肥センターや個別農家の堆肥舎の整備を促進してきました。この結果、当初計画の200ヶ所に対して平成17年度末までに補助事業等で204ヶ所の整備が完了しました。

平成18年度以降も新規参入、移転、規模拡大などに対応するため畜産公共事業を活用するとともに、簡易処理施設で対応した農家については、恒久的な処理施設の整備について支援します。

(2) 家畜排せつ物管理基準の遵守指導

県は「県計画」に基づいて、平成14年5月に「広島県資源循環型畜産確立基本方針（以下「基本方針」という。）」を策定し、資源循環型畜産推進指導協議会による指導を行っています。

また、平成16年9月に「家畜排せつ物の管理の適

正化及び利用の促進に関する法律関係事務処理指針」を制定し、法に基づく具体的な行政措置について規定しました。畜産経営に起因する苦情等は、市町が窓口で対応しますが、広域にわたる問題や複雑な問題は、地域協議会で一般指導を実施し、一般指導で改善されない農家に対しては、家畜排せつ物法に基づく行政措置を行うこととしています。

広島県資源循環型畜産推進指導体制

広島県資源循環型畜産推進指導協議会

県（本庁，地方機関），関係団体

- 基本方針の検討 ○家畜排せつ物処理施設の整備目標及び整備計画の検討，策定
- 家畜排せつ物の管理方法，堆肥の利用の促進等に係るマニュアルの作成

地域資源循環型畜産推進指導協議会（8ヶ所）

県地方機関，市町，関係団体

- 地域資源循環型畜産確立指導方針の作成 ○家畜排せつ物管理の実態調査及び悪臭物質等の分析調査
- 基本方針の徹底を図るとともに，家畜排せつ物の適切な処理技術の浸透及び耕種部門との連携による堆肥流通促進，需給情報のネットワーク化を図るための巡回指導の実施

畜産農家・耕種農家

(3) 耕畜連携による資源循環型農業の推進

ア 畜産農家は、処理施設の整備に伴い、堆肥生産量が増大し、新たな供給先の確保が課題となっています。

イ 耕種農家は、①農地の荒廃や鳥獣害被害の増加 ②化学肥料依存による地力低下③水田等への堆肥散布労力の不足が課題となっています。

ウ このため、耕種農家と畜産農家が連携し、①荒廃する農地を再生・保全するための水田放牧の推進 ②堆肥の運搬散布を効率化し堆肥の利用拡大を図るための堆肥ストックポイントの整備 ③飼料イネの生産、稲わらの利用拡大 ④減化学肥料栽培の推進を図っています。

また、これまで堆肥の品質向上を目的に開いていた堆肥共励会では、第6回目となる今年度か

ら耕畜連携の取組状況も採点項目に加えました。

5 畜産環境保全事務の権限移譲

本県では分権改革を積極的に推進しており、畜産環境保全事務のうち家畜排せつ物適正処理等に関する事務を平成18年度から平成21年度までの4年間で市町に権限移譲することとしています。

権限移譲する内容は、家畜排せつ物法に基づく家畜排せつ物の適正管理、処理に係る畜産事業者に対する立入検査、指導助言、勧告、命令及び処理高度化施設整備計画の認定事務です。

堆肥処理技術等に関する知識が必要な立入検査、指導業務については、権限移譲が円滑に行われるように市町職員に対する研修会を開催する予定です。